

みなとの歴史散歩 No.17

諏訪平の己巳塔 (町指定文化財)

社会教育担当 望月暁

暦と己巳

己巳は暦に関係する用語です。十干(甲・乙・丙・丁・・)と十二支(子・丑・寅・卯・辰・・)を組み合わせた干支と呼ばれるもので、甲子から癸亥まで60年または60日をかけて一回りします。大陸の陰陽道や道教の影響を受けて成立し、日本には古代に伝わりました。己巳と同じ性格のものに、日光東照宮の見ざる・聞かざる・言わざる(三猿)で有名な庚申があります。

日待と月待

一年の中で決まった日に人々が集まって夜を過ごし、日の出とともに解散することを「日待」と呼びます。これに対し、特定の月齢の夜に人々が集まり、月の出を待つことを「月待」といいます。夜中に昇る二十三日目の月が代表例です。両者とも集落全

体で神を迎えるための、厳重な潔斎を伴う忌籠が起源と考えられますが、時代の変化とともに年齢や性別、居住場所などの参加資格を有する団体によって行事が催されるようにもなりました。このように同じ信仰を共有する集団や団体を「講」、そのメンバーを「講中」と呼びます。

干支の広がり

干支にも日待・月待と同じように夜を徹して行事を行う日がありました。己巳もそう、中世頃に庶民層へ浸透し、日待や月待と並び年間行事に組み込まれていきました。その中で特定の神仏や動物と結びついたようです。難しい教義ではなく、生活に密着する暦や身近な動物をとおして庶民に神道や仏教を広めた集団がいたのでしょう。己巳の「己」は弁財天・少彦名命、「巳」

は蛇と考えられています。当日はあらかじめ籤などで決められた当番の家に集まり、掛け軸や神仏像を拝みながら夜通し飲食するのが一般的な姿だったようです。日待や月待の影響を受け、当初は厳格な禁忌を伴っていたようですが、徐々に飲食や雑談が中心になっていきました。

石塔の成り立ち

己巳塔は県道と林道金山線が交わる場所にあります。高さ136cm、幅93cm、表面には「己巳塔」と刻まれ、庚申や月待塔とは異なります。己巳塔は数が少なく貴重な存在です。裏面には「享和二年(1802年)四月に金沢村上郷講中で建てた」と記されています。「講中」という文字から、金沢村上郷の有志によって建てられたことが分かります。このような石塔の場合、一定期間行事を繰り返して催し、期間経過後に結願の記念として建立されることが多かったようです。石塔を建てるには多くの資金と労力が必要ですから、まさに一大事業だったでしょう。文字を刻んだのが町内三沢の出身で書道の達人と呼ばれた野沢禽斎であ



諏訪平の己巳塔

ることからもその意気込みが分かります。この石塔は「みみっとう」とも呼ばれていますが、これは己巳を「みみ」と読み「耳の神」とした結果でしょう。暦のひとつであった干支は中世以降、神仏のあらわれとして信仰の対象となり、明治も近い19世紀にはその幅を民間信仰にまで広げました。石塔は木など他のものに比べて残りやすく、昔の姿を伝えているといわれますが、外面は変わっていないくても、その意味合いは常に変化していったことを見落としてはなりません。

運動会・体育祭 日程

学校名	開催日	予備日
皆野小学校	9月21日(土)	9月22日(日)
国神小学校		9月24日(火)
		9月25日(水)
三沢小学校		9月22日(日)
		9月25日(水)

学校名	開催日	予備日
皆野中学校	9月14日(土)	9月15日(日)
		9月18日(水)
		9月20日(金)
皆野幼稚園	10月12日(土)	10月13日(日)